地球ひとつぶで生きる
緑の党
グリーンズジャパン

グリーンズ ボイス vol.1（2018.Jun）
GREENS VOICE
緑の党グリーンズジャパン東京都本部広報紙

講談師 神田 香織 Interview

闘いは明るく楽しく
あきれ果ててもあき

「はだしのゲン」、「チェルノブイリの祈り」など、原爆・原発をテーマに独自の講談を繰り広げる神田 香織さん。講談を武器に社会の矛盾や理不尽さと闘いながら、常に前向きで笑顔が絶えない彼女から、「怒り」の向け方を学びたい!!

講談には、庶民がスカッとするような分かり易さがある

――最初に、講談の世界とは何か?!ということをお聞きしたいと思います。

神田　講談は昔から、庶民がスカッとするような分かり易さを追求してきました。いわゆる勧善懲悪です。例えば、忠臣蔵など世の中に影響 を与えた大事件をテーマに、誇張を入れたり、会話を創作したりしながら、心に響く物語にアレンジして、庶民や民衆に語り伝えていたわけです。以前は古典を演っている人が多かったのですが、私が30年程前から「はだしのゲン」を演じるようになって、いまは戦争や社会派の噺を、皆さんがテーマとして扱うようになっています。

講談を変えた?! 「はだしのゲン」との出会い

――「はだしのゲン」をはじめ、戦争をテーマにした噺をライフワークにされていますが、戦後世代の神田さんにとって、その思いが噴出したきっかけは何だったのでしょうか?

神田　ちょうど、前座が終わって、二つ目としてプロへの門戸が開かれた頃、開放感

もあって、サイパンに遊びに行ったんです。サイパンというとリゾートですが、実は戦争の傷跡がたくさん残っています。なかでもサイパン島北部のバンザイクリフという岬は、空も海も真っ青でとても美しい場所です。ところが一方で、激しい戦闘に追い詰められた日本兵や民間人が「天皇陛下、万歳」、「大日本帝国、万歳」と叫びながら、身を投じた悲劇の断崖（岬）でもあるのです。戦争のことを詳しく知ろうと思ったのは、それがきっかけだと思います。

――画期的な講談「はだしのゲン」が生まれたいきさつについて教えてください。

神田　サイパンから帰国後、日本の戦跡も隈なく歩きました。でも、さすがに広島・長崎は、あまりにも悲惨過ぎて、「講談にはできないかもしれない」と思いました。そんな時に出会ったのが、「週刊少年ジャンプ」に連載されていた「はだしのゲン」。ドキドキ興奮してくると同時に、何か不思議な力が湧いてきました。酷い目に遭いながら、歯軋りしながら、「負けてたまるか!!」と立ち向かっていく魂の声が、私をそうさせたのだと思います。

講談師はジャーナリストと俳優を兼ねた現代の辻説法師

しつっこく
めない

噺が現実に、しかも故郷で起こってしまった原発事故

――続いて、「チェルノブイリの祈り」という作品で、原発に関するメッセージを強く発するようになりましたね。

神田　「はだしのゲン」の初演の僅か4か月前、稽古と広報に必死になっていた1986年4月26日、ソビエト連邦（現ウクライナ）チェルノブイリで原子力発電所の事故が起きました。その瞬間、「いつかチェルノブイリの講談もやろう!!」と決意したのを覚えています。

というのも、私は「原発銀座」がある福島のいわき市の生まれ。そこで、その後、２０１５年にノーベル文学賞を受賞する原作者のスベトラーナ・アレクシエービッチさんにメールをして、快く許可をいただくことができました。

――ところがその後、２０１１年３月11日の東日本大震災で、神田さんの故郷である福島で悲惨な事故が起こるわけです。

神田　チェルノブイリに関して、日本人の多くは「ソ連だから起きた事故」として片づけていたんです。でも、私は心の底で「そうじゃない!!」と思っていて、噺の最後に「日本でも大変な事故が起こった!!」という仮想事故の内容を加えていたんです。それが現実に!! しかも、私が生まれ育った福島で起きてしまうのですから、皮肉ですね。

あの事故は完璧に人災です。地震で津波が来たらまずい!! というのを分かっていて、「お金がかかる」という理由だけで放置し続けてきたのですからね。

緑の党グリーンズジャパンさんに
あきれ果てても
あきらめず！
2018.5.20

笑いと健康をマッシュアップしながら、闘い続ける

――最後に神田さんの今後の目標を教えてください。

神田　まず、明治維新をテーマに現在とのつながりを噺として語っていきたいと考えています。もちろん、福島についても語っていきますよ。

また、現在、あるお医者さんが考案した「笑いヨガ」というものにも取り組んでいます。世知辛く、生きにくく、ストレスが高まりやすい現代において、怒りをテーマにした講談と表裏一体の関係を築ければ、皆さんのためにもなるんじゃないかと思っています。

いずれにしても、「闘いは、明るく楽しくしつっこく、あきれ果ててもあきらめない」こそが、私の信条。今後も講談はもとより、笑いあり、涙ありのイベントなどを通じて、闘い続けていきますよ。

是非、皆さんもご一緒に!!

【プロフィール】
1954年12月4日、いわき市生まれ。高校卒業後に女優を志し、芝居の勉強の一環として、1980年に二代目神田山陽門下生となる。ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた神田香織独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。
1986年「講談はだしのゲン」公演で日本雑学大賞受賞。1989年真打ち昇進。1994年いわき市に居を移し地域に残る民話や伝説を講談で掘り起こし地域興しに貢献。2003年再び居を東京に移し、2007年より講談教室「香織倶楽部」を主宰。日本演芸家連合加盟、講談協会会員。

下記URLにてインタビュー全文掲載
https://greens-japan-tokyobranch.jimdo.com/